

下館一高生へ 伊東史隆



赴任しましてまもなく一年が経とうとしています。

下館一高勤務は、水戸南高校を駆け出しに、茨城東高校、石岡一高、水戸三高、那珂湊二高ときまして六校目になります。その中で、勉学の他、部活動がこれほど盛んな学校は初めてです。私の高校生時代を振り返りますと、何の目的も目標も持たず、ただ、だからと過ごしてしまっただけに思います。高校時代は、人生の中で二度とありません。社会に出るとかと思うときがあるのですが、「学校に通っていたころはよかったな。」と。ですから、限られた高校生活をより有意義に過ごしていただきたいと願います。

母校に勤めて 増淵里江 (六十八回卒)



四月、久しぶりに戻って来た母校は、当時と変わりなくあたたかく私を迎え入れてくれました。あれから一年が経つと思うと、時の経つ早さを感じますが、毎日充実した日々を送れているのは、周りの方々に支えられているおかげだと思っております。

下館一高の生徒達への印象は、意識が高く前向きな生徒が多いということです。日々勉学に励み、部活動や学校行事にも熱心に活動する生徒たちの姿は、昔と変わりありません。現在、目まぐるしく変化する世の中で、本来の学生らしい姿を見られることにとても感心しております。私にとって、下館一高での三年間は想い出深いものです。すばらしい先生方や大切な友人たちとの出会いは、私の

平成二十年度 職員異動

心を豊かにし成長させてくれました。その母校に少しでも恩返しができるよう努力したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

一、退職者
教諭(英語) 淀縄 義男

主事 前原 律子

二、転出者

教頭 石川 弘
(下妻一高教頭へ)

教諭(英語) 猪瀬 幸夫
(境高へ)

教諭(国語) 皆川 徹
(八千代高へ)

教諭(数学) 荻野 正男
(古河三高へ)

実習教諭 田上 妙子
(結城一高へ)

主任 鳥羽 明子
(筑西産業専門学院へ)

講師(音楽) 谷島 美佳
(境一中へ)

三、転入者
教頭 松本 正人
(保健体育課より)
教諭(英語) 高橋 好文
(水海道二高より)

教諭(数学) 須藤 幸一
(結城一高より)

教諭(数学) 酒寄 和記
(岩井西高より)

主任 伊東 史隆
(那珂湊二高より)

四、新採者
教諭(国語) 助川 裕子

講師(国語) 菱沼 郁雄

講師(音楽) 遠藤 晴美

主事 増淵 里江

主事 増淵 里江

主事 増淵 里江

主事 増淵 里江

主事 増淵 里江

主事 増淵 里江

主事 増淵 里江

主事 増淵 里江

平成二十年度 紫西同窓会 幹事

全日制

一組 磯山卓也 水越亜樹

二組 赤上直紀 飯村亮太

三組 富田英里

四組 青柳智哉 大和田沙貴
谷口大海
木村泰大 田辺未来
横山はるか

五組 中島友浩 平山剛士
六組 須藤謙人 上野翔太郎
七組 井上惠美 加藤晃平
吉江和真

定時制

須藤紘彬 米川明里

下館一高の進路指導の現状 進路指導部長 小川信弘



【平成二十年度入試概況】

平成二十年度センター試験の志願者数は前年から約一万人減少し、全国で約五万三千人でした。そのうち、現役が約四万二千人、浪人が約一万人九千人、大検等が約六千人でした。受験率は九二・八％で、全教科欠席者が約三万九千人いました。総合平均点は、七科目総合(九〇〇点満点)の平均点が文系型五四八・二点、理系型五四八・〇・九％、理系型五四八・四・九％、理系型五四八・四・九％で、文系は二三・一点、理系は一八・七点、前年よりアップしました。特に、国語は一・六点、数学I・Aは二・二点も平均点がアップしましたが、英語は筆記が五・八点、リスニングが三・〇点ダウンしました。全体的には平均点アップの影響もあり、受験生の減少(マイナス三・八万人)・センター試験志願者数の減少(マイナス一万人)にもかかわらず、国公立大二次出願者数はほぼ前年比みの約四万八千人、前年比マインス七五〇人で、予想外の小幅でした。その要因として次のようなことがあげられます。

①平均点アップによる国公立大受験チャレンジ志向の強まり

平均点が約二〇点上昇。好成績で二次出願者が多く出ました。(平均点が大幅ダウンし、二次出願者が減った昨年とは逆の現象)

②根強い国公立志向

景気回復傾向とはいえず、サブプライム問題など不安定要素もあり、依然、経済的にも負担の少ない国公立大志向が強い。

③私立大並みの学生募集活動の実施

大学法人化後のオープンキャンパス・大学説明会・高校訪問・PRなどの学生募集活動の展開が奏効してきています。

二次志願倍率の平均は、国立大で四・五倍、公立大で六・四倍で、国公立全体では四・九倍と、前年の四・八倍を上回りました。日程別では、前期が三・三倍で前年と変わらなかったものの、後期は募集人員の減少が影響し一〇・〇倍と昨年の九・七倍から上昇、また少数の公立大で実施される中期も一三・八倍と昨年の一二・六倍を大きく上回る激戦でした。

会場の拡大などの要因で、志願者が増加しました。センター試験利用入試志願者が前年より九％増加、都市圏の中堅上位校に人気が集まっている状況が続いています。

（センター試験データ等は旺文社『蛭雪時代』を参照）

【本校生平成二十年三月卒業生の状況】

毎年十月の推薦入試やその前夏休み中のエントリーからのAO（AC）入試から受験が始まります。二十年三月卒業生は、国公立大の推薦入試で筑波大九名をはじめとする十六名というこれまでにない結果を残しました。また、私立大の指定校推薦で八名、その他の自己推薦や一般推薦等でも九名が年内に進路を決定しました。年が明け、二・四名がセンター試験を受験し、その後、二月・三月の国公立大学の二次試験の受験対策に取り組む一方で、一月末からの私立大学一般入試にも挑みました。二月の自由登校になってからも、私立大の入試の合間に課外授業や小論文指導などを受け

るために、多くの生徒が登校し、最後の後期試験まで諦めずに頑張りました。

前述したように、根強い国公立大学人気で、苦戦を強いられ、結果的に国公立大学合格者は、七・四名現役六六名と昨年に及びませんでした。生徒たちはよく努力したと思います。現役生では、東京工業大学・東京外国語大学・横浜国立大学といったトップレベルの

難関大学へ合格した者、全国でも数少ない国公立大学の薬学部徳島大学へ合格した者もいます。浪人生では一年間の努力が実って東京大学文科三類へ合格した者もいます。また、八年前に本校を卒業し大学へ進みながら、医師を目指し、今春、信州大学医学部へ合格した者もいます。私立大学でも慶應義塾大学・早稲田大学をはじめ多くの難関大学へ合格しています。詳しくは後の表をご覧ください。

務員二名、「全入時代」に妥協せず捲土重来を期して浪人する者六二名という内訳です。

【各学年の現状】

〈第一学年〉

一年生も入学から早くも一年がたとうとしています。すっかり高校生活にも慣れ、勉強や部活動に積極的に取り組む姿が見られます。高校入學がゴールではなく、高校卒業・大学進學が目標だということ、早いうちから意識させるために、年二回の三者面談やその前後の二者面談で、各自の将来の進路希望や現在の成績状況などについて、担任と話し合っています。また、十月七日火には学年生徒全員が七コースに分かれて、東京都やつくば学園都市の企業・研究所等を訪れ、見学だけではなく、業務研究担当者から貴重な話を直接伺いました。生徒たちが将来の進路を考える際にヒントになるものが得られたのではないのでしょうか。

*訪問企業・研究所

ジェイティービー 東京証券取引所 カシオ計算機 ベ

ネッセコーポレーション

国際協力機構 JICA 筑波 熊

谷組技術研究所 ツムラ

理化学研究所 JAXA 筑波宇宙センター 国土地理院

住友化学筑波研究所 産業

技術総合研究所

現在、一年生は、二年での文理選択も決定し、各自の希望する進路の実現に向けて大きな一歩を踏み出そうとしています。

〈第二学年〉

昔から「中弛み」の学年と言われる二年生ですが、そうならないようにと、日頃から学年の先生方を中心に学習指導・生徒指導等に取り組んでいます。進路関係では、一年生のところでも書きましたが、常に生徒の状況を把握するための面談や、夏休み中の大学オープンキャンパスへの参加及びレポート提出などを行いました。十月二十八日（火）には、進路講演会を実施し、筑西市民会館でベネッセコーポレーションの森大輔先生をお招きして、「受験生になるために」という演題で約七五分間の講演をしていただきました。修学旅行も

終わり、高校生活も折り返し地点まで来て、いよいよ受験モードに切り換えるこの時期に、今後の受験勉強・学校生活の指針となるようなお話をわかりやすくしていただき、たいへん参考になったのではないかと思います。

また、十一月四日（火）には、「大学訪問」ということで、生徒全員がクラスごとに選択した七つのコースに分かれて、茨城大学・筑波大学・宇都宮大学・埼玉大学・群馬大学・茨城県立医療大学・埼玉県立大学・高崎経済大学といった国公立大学や、東京理科大学・芝浦工業大学・文教大学といった私立大学を訪問し、キャンパスを見学したり、大学の授業を実際に体験する模擬授業を受けたりしてきました。模擬授業では、専門分野の話を高校生向けにわかりやすく講義していただいたので、興味深く臨みました。また、各大学とも研究施設や図書館の充実ぶりは、さすがに高校とは比べようがないほどでした。余談ですが、「学食（学生食堂）」の充実ぶりにも心を惹かれました。

こうした進路の行事等を通じて、生徒たちが各自の進路をより具体的に描き、その実現のためには何をすべきかが見えてくれば、と思います。

今年度は全学年で毎月学習時間調査を実施しています。全体的に、徐々に学習時間は増えてきてはいますが、個人差があり、まだまだ充分とは言えない状況です。特に二年生は大学受験まで一年を切っており、さらに学習に時間を充てて、受験生としてのスタートを切らせたいと思います。

〈第三学年〉

毎日遅くまで「時習館」や図書室、教室で勉強する姿が目立ちました。早朝課外や放課後の課外にも積極的に多数の生徒が参加していました。

各自がはっきりとした自分の志望校を決め、そこに合格するためには、日々努力あるのみということに三年生は認識しているようです。

紫西会報

十月からの推薦入試では、国公立大学合格者が十三名、私立大学では、指定校推薦で

二七名、自己推薦AO入試で五名、一般推薦で三名が早々と各自の第一志望校への進路を決定しています。詳しくは以下のとおりです。

国公立大推薦入試合格一三名

筑波大学 六名

埼玉大学 一名

宇都宮大学 一名

群馬大学 一名

茨城県立医療大学 四名

私立指定校推薦入試合格

二七名

慶應義塾大学・明治大学

青山学院大学・津田塾大学

中央大学・東京理科大学

日本大学・東洋大学

国際医療福祉大学

北里大学・自治医科大学

東京薬科大学・大妻女子大学等

私立自己推薦AO入試五名

慶應義塾大学・帝京大学

明治学院大学等

私立一般推薦入試合格三名

獨協医科大学

国士館大学

京都精華大学

一月の平成二十一年度大学

入学者選抜大学入試センター

試験は、本校では二六六名が

受験しました。各科目の平

均点などは、後の表に記載しましたが、他校と比較しても遜色のない結果です。今後は、国公立大学二次試験対策の課外授業や小論文指導・面接練習などに取り組み、最後まで生徒・学校が一体となって努力したいと思います。

【筑西ブレ・カレッジ講座】

生徒の進路選択・決定のためには、高校の授業以外のところでも、興味・関心を喚起し、そして感動を与えることが必要だと思われます。そこで今年も八月五日(火)〜七日(木)の三日間、茨城大学・筑波大学から六人の先生を本校にお招きし、九〇分の講義を二コマ(計一八〇分)していただきました。講義の内容の一部を紹介すると、

茨大の島田先生の「視覚表現入門」ではディズニーと宮崎アニメの違い・国による映像表現と解釈の仕方の違いについて、「となりのトトロ」「もののけ姫」といった具体的な作品を見ながら、考えました。また、筑波大の新井先生の「科学の起源／物理学の誕生」では、意外と身近にある物理現象を取り上げ

たり、玩具を用いたりでの説明がまるでマジックのようで、「物理」に対するイメージが変わりました。他の先生方も、高校生にも分かりやすく興味の持てるような内容で、専門的なことを詳しく説明していただき、受講生からは「分かりやすかった・おもしろかった・普段の授業では聞けないような内容だった・もっと知りたい」といった声が多数出ました。

講義名と講師名は以下のとおりです。(敬称略)

「視覚表現入門」

茨城大学 島田裕之

「科学の起源／物理学の誕生」

筑波大学 新井一郎

「心理学とは何か」

茨城大学 伊藤哲司

「昆虫の超能力を探る」

筑波大学 本田洋

「海は何故塩辛いのか」

茨城大学 伊藤孝

「生物の不思議を化学する」

筑波大学 繁森英幸

【文化講演会】

毎年恒例の文化講演会。これまで各界で活躍の方々に講演をしていただき、生徒たちには将来を考える上でよい刺激を与えてきました。二

十年度は、六月十一日(水)に、本校卒業生でもあるノンフィクション作家の中丸美繪(なまきりみ絵)先生に『私の選んだ道ー作家になるまでの出会いと道のりー』と題して講演をしていただきました。

先生は、本校卒業後、慶應義塾大学で英米文学を学び、日本航空勤務を経て、エッセイ他の執筆活動に入りました。九七年「嬉遊曲、鳴りやまずー斎藤秀雄の生涯」で第四五回日本エッセイスト・クラブ賞、第九回ミュージック・ペ

ンクラブ賞を受賞。その後も、広範囲にわたる関係者への取材に基づく評伝の執筆を中心に、新聞・雑誌などで書評・エッセイを書いたり、講演会・講座の講師を務めたりなさっています。

今回の講演では、卓球部員として練習に明け暮れた先生の本校での高校生活のことや、大学受験のこと、航空会社勤務時のこと、そして作家になるまでのことをわかりやすく話していただきました。また、先生が出演された「NHKしごきライブラリー」をスクリーンに映し出し、エッセイストがどんな

仕事をしているのかを具体的に説明していただきました。最後に「オンラインワンを覗く」活動が私の場合は文学や芸術でした。皆さんはたった一つの自分だけの花を咲かせて行ってほしい。今日の出会いが何か参考になれば…」と、後輩への思いを述べられました。

最後に、同窓会会員・保護者の方々には、平日頃から下館一高のためにご尽力いただき深く感謝しております。これからも、本校の生徒の成長のために、ご指導・ご

鞭撻くださるようお願い申し上げます。なお、本校のその時々話題・状況については下館一高のホームページに載せてありますのでインターネットを通して、ご覧くださ

い。進路指導部で年十回程度発行している中学生向けの「館一ニュース」もご覧になれます。ご覧になってのご意見・ご感想等、いただければ幸いです。下館一高のホームページのアドレスは、
<http://www.shimodate1-h.ed.jp/>です。(「下館一高」で検索されてアクセスできます。)

主な大学合格者数

(年度は入試年度です。)

(主な国立大学)

大 学 名	20 年 度	19 年 度	18 年 度	17 年 度	16 年 度
北 見 工 業	1	0	0	0	0
東 北	0	2	2	0	0
山 形	0	2	2	3	6
福 島	0	1	1	1	5
茨 城	17	21	29	29	27
筑 波	11	11	16	17	10
宇 都 宮	18	13	8	17	21
群 馬	1	2	3	4	3
埼 玉	7	5	3	4	5
千 葉	1	4	4	2	6
東 京	1	0	1	1	0
東 京 工 業	1	0	0	0	0
東 京 外 語	1	0	0	0	0
横 浜 国 立	2	0	0	1	2
そ の 他	3	3	14	8	12
国 立 大 計	64	64	83	87	98

(主な私立大学)

大 学 名	20 年 度	19 年 度	18 年 度	17 年 度	16 年 度
国際医療福祉	16	20	24	17	12
獨 協	9	9	13	8	15
文 教	7	10	16	10	18
青 山 学 院	9	6	6	7	7
大 妻 女 子	0	4	0	4	4
北 里	4	2	9	7	4
慶 應	6	2	3	3	3
国際基督教	0	0	0	1	0
駒 沢	11	11	25	4	13
芝 浦 工 業	12	13	17	12	6
上 智	1	4	0	2	1
専 修	12	11	15	10	12
中 央	13	8	12	7	14
津 田 塾	2	0	3	2	2
東 京 女 子	0	0	2	1	2
東 京 薬 科	1	0	1	1	1
東 京 理 科	11	10	17	13	4
東 洋	23	28	38	20	19
日 本	16	25	20	20	19
日 本 女 子	1	3	1	1	4
法 政	18	17	15	9	12
武 蔵 工 業	2	9	10	2	4
明 治	5	17	14	10	13
明 治 学 院	2	10	13	6	6
立 教	2	8	9	4	0
早 稲 田	2	2	6	7	5
そ の 他	241	274	350	308	213
私 立 大 計	426	502	639	496	413

(主な公立大学)

大 学 名	20 年 度	19 年 度	18 年 度	17 年 度	16 年 度
高 崎 経 済	2	2	3	1	0
県 立 医 療	2	3	9	8	3
首都大東京	2	1	2	2	0
横 浜 市 立	0	1	2	3	0
そ の 他	4	10	12	15	6
公 立 大 計	10	17	28	29	9

進路決定先人数

年 度	国公立大	私 立 大	短期大学	専門学校	就 職	未定・他	卒業者数
20	65	133	0	13	1	62	274
19	64	162	5	9	4	32	276
18	90	150	3	6	2	29	280
17	86	156	7	12	3	53	317
16	89	124	8	10	2	83	316

2009年度大学入試センター試験平均点

科 目	国 語	数学ⅠA	数学ⅡB	英 語	世界史B	日本史B	地 理 B
本校平均	121.1	69.9	56.4	118.3	69.7	61.6	61.6
全国平均	115.5	64.0	59.9	115.0	62.7	57.9	64.5

科 目	物理Ⅰ	化学Ⅰ	生物Ⅰ	リスニング
本校平均	64.1	70.7	59.2	27.3
全国平均	63.6	69.5	55.9	24.0

※ 全国平均は中間発表のものです。

部活動だより

バレーボール部

男子は酒寄先生、廣瀬先生、女子は中村先生のご指導の下、日々活動をしています。昨年の大会ではよい結果を残せなかったため、春先の大会では県大会出場を目標として頑張りたいと思います。

バスケットボール部

バスケットボール部の長所は、先輩、後輩の仲が良く、また時間通りに練習を始められるという点です。そして迎えた新人戦では、練習の成果が表れ、県大会に出場できました。これから日々の努力を大切に、男女共にチームのレベルを上げていきたいと思っています。

陸上競技部

男子八名、女子五名で活動しています。昨年行われた県西新人大会では三名が上位入賞を果たしました。現在は四月下旬の大会に向け、切磋琢磨して日々練習に取り組んでいます。残り少ない

時間を有効に使っていききたいと思っています。

硬式野球部

硬式野球部は春秋の県大会出場、夏の大会で一つでも多く勝つために日々練習に励んでいます。チームの一人一人が自分に厳しく大切な仲間と切磋琢磨し勝利の為に何事にも全力で取り組んでいます。選手もマネージャーも募集しているので興味のある人はぜひ来てください。

卓球部

卓球部では、一年生十名で大吉先生のご指導のもと日々練習に励んでいます。僕はまだまだ未熟であり、大会では良い結果を残せていません。指導してくれる先生のためにも、これからの大会ではよい結果が残せるよう切磋琢磨していきたいと思っています。

剣道部

剣道部は、男子八名女子五名の少人数ですが毎日の練習にはチーム一丸となり熱心に取り組む、昨年の秋季県西大会で男子団体優勝と結果もついてきました。今

年こそは毎年後一步で逃す県東出場を成し遂げられるように精一杯頑張っていこうと思っています。

ソフトテニス部

ソフトテニス部は、男子七人、女子五人で活動しています。冬は暗くなるのが早いので、時間を無駄にしないように心がけ、練習の後のトレーニングも本気で取り組んでいます。人数が少ないのが現状なので、新入生が入部してくれる事を期待しています。

柔道部

柔道部は、部員五名と少人数ながらも日々「精力善用 自他共栄」の基本理念のもと練習に励んでいます。以前までは、なかなか「勝ち」に恵まれなかった部活でしたが、昨年は県西大会ベスト8に入賞する事ができました。今年も一丸となって頑張ります。

バドミントン部

バドミントン部は男子十一人と女子十人の計二十一人で県大会上位入賞を目標に日々努力して活動しています。昨年の戦績は、男子がシング

ルス、ダブルス、団体戦で県大会出場。女子は惜しくも地区大会で負けてしまいました。

テニス部

テニス部は二年生二名、一年生三名の少ない人数ですが、県大会出場を目標に日々練習に取り組んでいます。去年は惜しくも県大会出場という目標を果たせなかったため、今年はその悔しさをバネにして、目標を達成したいです。今後も頑張っていきたいと思っています。

サッカー部

サッカー部は顧問の白岩先生、副顧問の川上先生のもと日々活動をしています。冬の選手権では県大会一回戦負けと結果が出せませんでしたが、先輩方が残した県東大会予選、総体の二大会連続ベスト8以上の成績を残す事を目標に掲げています。



弓道部

弓道部は二年生十八人、一年生は十三人で、昔から代々続く伝統を守り日々の練習に励んでいます。一年生と二年生の仲は良くいつも楽しく練習しています。県大会には男子、女子ともに出場し、男子個人で関東大会出場と今後も頑張っていきたいと思っています。

軟式野球部

軟式野球部は丸山先生のご指導の下、日々楽しく活動している部活である。部員は男子十四名、女子三名の計十七人と少し少ないが、全員が「文武両道」をモットーとして高校生活を充実させている。

ボクシング部

毎日大会に向けて頑張っている人もいれば運動など他の目的で活動している人もいます。今の練習環境では、試合に出るのが正直厳しい現状です。

ライフル射撃部

ライフル射撃部は、真壁にある射撃場で日々練習を行っ

ています。毎年、全国大会、関東大会に出場しています。今年度は、全国大会団体十三位、関東選抜大会個人六位とい成績を収める事が出来ました。射撃を通して集中力を得ることができ、また個々の努力で結果を出せ達成感が得られます。ぜひ一度体験してみてください。



山岳部

山岳部とは文字通り、山に登る部活です。先輩方の果たした県東大会出場、県大会二位を超えるため、島田先生のご指導のもと二年生二人ですが日々山行に励んでおります。山頂からのすばらしい絶景を目の当たりにした時、この部活のやりがいを感じられます。

美術部

美術部は少人数ではありますが、県西展や県の展覧会に

向けて日々活動しています。個人で活動内容は異なり、デッサンや油絵、水彩画などを主に描いています。文化祭のある年は部活動で展覧会を開くので、それに向けての作品作りも活動内容に含まれます。

写真部

我が写真部は毎年、県高校総文祭に出展しており、この十年間で全国の代表に三回、関東の代表に八回選抜されており、関東へは五年連続で選ばれています。活動内容は撮影会への参加や作品制作、年に一回の撮影旅行などです。



茶華道部

茶華道部では一年生三人、二年生四人の合計七人で毎

週火曜日の放課後に講師の先生を招いて活動しています。

上下関係もなく、茶道未経験でも大丈夫です。おいしいお菓子とお茶を用意して待っています。興味のある人は家庭科室の隣にある茶道室まで遊びに来て下さい。

吹奏楽部

吹奏楽部は、女の子二十名、男の子三名の計二十三名全員がレギュラーとして活動しています。主に、コンクール・定期演奏会・野球応援・その他音楽祭などで演奏しています。いつでも部員募集中なので、興味のある人は是非音楽室をのぞいてみてください。



音楽部

早朝、放課後をメインに旧部室棟の一室で活動をしています。文化祭でのライブのほか、有志による校外ライブハウスでの演奏もしています。戦績と呼べるようなものはありませんが、皆で楽しむことを目標としています。

文芸部

全日制五名、定時制二名で毎週金曜日に活動しています。俳句甲子園、短歌甲子園出場をはじめ個人でもさまざまな賞を受賞しています。只今部員が少ないので、俳句や短歌に興味のある方は是非入部してください。

生物部

生物部は日々グローバル規模で活動しています。昨年度は筑波大学全面協力のもと全国三位、県では二位という輝かしい成績を残しました。優秀な生物の先生方の熱心な指導のなか、日々精進しています。是非、生物部にきてください。

放送部

放送部は部員十人で楽しくまったりと活動しています。部の活動は年間を通して発声練習など地味ではありますが、新人戦入賞やNHK杯全国大会出場など大会にも出場しています。興味のある方は職員室隣の放送室に遊びに来てみてください。

パソコン同好会

各々が、自らの得意とする技術を磨くべく、日々の活動に取り組んでいます。その内容は多岐にわたり、パソコン操作に欠かせないタイピングから、音声・画像ファイルの編集、動画やプログラムの制作等、様々です。

ボランティア同好会

部員数が少ない中、ボランティアの行事に積極的に参加し地域の人々との交流、ボランティアの大切さを学んでいます。障害のある方ない方に関わらず一生懸命やっています。活動は年に数回しかないので兼部も可能です。少しでも興味があれば、瀬尾先生に声を掛けてみてください。

さい。

ストリングオーケストラ同好会

ストリングオーケストラ同好会は、部員六名で活動しています。部員はつくばウェストシンフォニア青少年オーケストラという団体にも所属しており、プロの先生が直に教えてくれます。また同好会内の雰囲気は和やかで人数が少ない分みんな仲がよいです。

書道同好会

書道同好会は、計十二名で活動しています。練習は各個人で行うので、自分のペースで活動する事が出来ます。主に、各種書道展での上位入賞や、茨城県文化祭美術展への入賞や終戦などの成績を残しています。随時部員募集中なので、興味のある方は是非入部してください。



編集後記

何とか編集作業も終わり、紫西会報39号をお届けすることが出来ました。

同窓会長さん宅へ、原稿を取りに伺った折りに、とても心を込めてもてなしていただきました。人間の温かさを再認識させていただきました。同窓会の繋がりの尊さを感じる事が出来ました。紫西同窓会がますます発展することを願います。

原稿をお願いした方々には本当にありがとうございました。

紫西会報では、いつでも下館一高を卒業された方の記事をお待ちしておりますので、もししお寄せ頂きたいと思えます。お便りはじめ、お電話・FAX・電子メールで受け付けております。お気軽に寄稿して頂きたいとお願い申し上げます。

編集委員

清水 順子
佐藤 伸彦

増淵 里江

渡辺実乃梨(二年三組)
写真提供 鈴木写真館